

大阪公立大学

大学教育だより



RDHE 2026.3 No.4

Center for Research and Development in Higher Education

大阪公立大学高等教育研究開発センター
森之宮キャンパス 〒536-8525 大阪市城東区森之宮2-1-132 4階406室

本冊子および前身の冊子は下記のURL・QRコードで読みます
<https://www.omy.ac.jp/ias/highedu/publication/rdhe/index.html>



ロゴデザイン:吉谷ひかり

C
O
N
T
E
N
T
S

大学教育だより No.4

Voice ~学生の声

他学部の専門分野を知って学びを深めよう! 2-5
法学部と現代システム科学域の学生交流と座談会

Campus Inquiry

学生の皆さんの学びが深まるよう、より良い教育に取り組んでいます! 6-9
経済学部・経済学研究科／農学部・農学研究科／
看護学部・看護学研究科／情報学研究科

OMU Education & FD News

もっともっと学びが楽しくなる! 多様な学びのステップアップをお手伝いします 10
OMUラーニングセンターの支援内容や自主学修教材のご紹介
学部・学域などを超えて、大学全体で教育の充実に向けた取り組みを行っています! 11

アン ロゾ (Un roseau) No.4

「大学で学ぶ意義や面白さ」について語っていただいています!

- ・阿久澤 麻理子 先生 (都市経営研究科・教授)
- ・川添 充 先生 (国際基幹教育機構・教授)

Voice ~学生の声~

総合大学で出会う多様な学問の世界。
他学部の専門分野を知って自分の学びを深めよう！



法学部と現代システム科学域の学生交流と座談会

新入生の皆さんはご自身の学部・学域で専門分野を学べることに大きな期待があると思います。上級生の皆さんには、実際に専門分野の知識や経験を深めていることでしょう。しかし、総合大学である大阪公立大学での学びは、専門性の追求だけではありません。他の専門分野を知ることで、自分の視野を広げ、異なる角度から物事を考える力を養うことができます。



法学部の授業の動画視聴

今回の企画では、杉本キャンパスの「法学部・法研究科」と中百舌鳥キャンパスの「現代システム科学域知識情報システム学類・情報学研究科」の学生が学びの共通点や相違点からお互いに学ぶため、2025年10月15日（水）に杉本キャンパスにおいて、それぞれのゼミや講義の様子を録画した動画を視聴し、普段の授業や学びについて知る機会を設けた後、座談会を行いました。座談会には法学部・法研究科の学生11名（3年生9名、大学院生2名）、現代システム科学域・情報学研究科の学生6名（3年生1名、4年生3名、大学院生2名）が参加しました。また、高等教育研究開発センターから飯吉弘子先生、深野政之先生、橋本智也先生に、OMUラーニングセンターから永井正太郎先生に加わっていただきました。座談会の司会は法学部、現代システム科学域それぞれの学生が担当しました。



現代システム科学域の授業の動画視聴

授業の様子や卒業論文について

【現：A（修士2年）】本日の司会を務めます、大学院2年生のAと申します。学部のときは現代システム科学域（以下、「現シス」）に所属していて、同じ研究室のまま、情報学研究科に進学しました。

【法：B】同じく司会で法学部3年生のBです。国際政治のゼミに所属しています。

【現：A】まずは、先ほど動画で見たお互いの授業について、感想や質問を聞いてみたいと思います。

【法：C】現シスの授業は、先生の講義動画を授業の前に見て予習していたり、みんなでプログラミングをしながら授業を進めていたりして、法学部の授業の進め方と全然違ってびっくりしました。

【法：D】そうですね。法学部では作業をしながら授業を受けることはまずないので、確かに新鮮でした。

【法：E】プログラミングしているところを初めて見て、率直に難しそうやなと思ったのと、これが1回目ということは、これからどんどん新しいことを積み重ねていって難しくなっていくんですね。すごいことしてるなって思いました。

【現：A】動画で法学部のゼミの様子を見せてもらって、作成しているレポートの構成や読んだ論文の紹介を皆さんされていましたが、現シスでも研究室があって、毎週それぞれ自分の研究の進捗報告をしていました。その雰囲気は似てるなと思いました。

【現：F】僕はジェンダーとか福祉関係にすごく興味があって、研究テーマはそれらに情報を組み合わせています。法学部と現シスは分野が違いますが、共通点はあるんじゃないかなと思ってゼミの動画を見ていました。法学部の授業のことは全然知らなかつたんですけど、法律とか憲法何条みたいな話をずっとしてた

ージがありました。先ほどの動画だと国際問題について議論されていて、何か想像している授業と全然違う感じでびっくりしました。

【現：G（修士1年）】法学部って卒業論文がないって聞いたことがあるんですが、本当ですか？

【法：H（修士2年）】はい、たしかに法学部には卒論はありません。でも、ゼミによっては5千字から2万字のレポートを課すところがあります。

【現：G】5千字のレポートを書いたらゼミの単位がもらえるんですか。学部によってずいぶん違うんですね。

【現：A】すごく嫌な聞き方ですけど、4年生になったら単位をほとんど取り終わってると思うし、卒論がないんやとしたら何してるんですか。（笑）

【法：B】法学部は卒論がなくて楽だなと思われているんですけど、反論できる人は。（笑）

【法：H】4年生は何をしているのかというと、就活もありますが、公務員試験と、その先の法科大学院試験や予備試験¹を見据えて勉強していますね。あと、いろんな授業で単位を落とす人も少なからずいるので、法学部では4年生になるまでに単位をほとんど取り終わるのが至難の業です。なので、卒論がないからといって楽ではないし（笑）。中高時代の定期試験に追われる日々をみんな大学生になっても続いている感じです。

【法：I】単位を落とすのは、定期試験が厳しいからですね。法学部には半期30コマ4単位で期末試験一発勝負という授業が非常に多くて。同じ一発勝負でも15コマ2単位よりもかなり負担が重いです。

¹ 予備試験 … 法科大学院を修了した者と同等の学識を有するかどうかを判定するための試験。司法試験の受験資格を付与するのが目的。

【現:F】現シスだと、毎回の授業で課題が出て、課題50%と期末試験50%みたいな感じが多いです。法学部のように期末試験の比重が大きいというのは、卒論とは違う大変さがありそうですね。

【法:I】期末試験では、学説、判例、条文など、覚えないといけない量が非常に多いです。1年生のうちはどのように勉強をすればよいか戸惑うことが多いですね。

【法:H】大阪公立大学の法学部の定期試験は論述式なんですけど、司法試験と同じくらいの難易度と言われています。司法試験といえば、ロースクールに行って何年も浪人して頑張って取るような厳しい試験です。

【法:B】以上、法学部生による言い訳タイムでした。(笑)

【現:A】法学部は卒論がなくていけないみたいな雰囲気だったのが、勉強大変そうだって現シス全員おびえてます。(笑)



【現:G】私から現シスの大変さをご紹介します。(笑)研究を進めるときの話ですが、なかなか計画通りにいかなかったり、予想と全く違う結果になったりします。方向転換してすごく苦労したり、途中で挫折してしまったりする人もいます。法学部の皆さんだと試験合格のための勉強を頑張る大変さかなと思うんですが、現シスだと積み重ねていったものが結果につながるかわからない大変さと言えるかもしれません。

【現:A】僕は塾のアルバイトをしていて、その生徒で何となく大阪公立大学の法学部に行きたいって言っている高校生がいるんですけど、勉強の大変さを経験している皆さんだったら、どういうアドバイスをされますか。

【法:B】大学に何を求めてるかですかね。確かに勉強は大変ですけど、法学の知識について、その後の人生に生かせるし、すごく意味のある大学4年間というか、大学に行くこと自体に意味を見いだせると思います。勉強よりも遊びたいっていうのであれば、勉強に大きく時間を割くと思うので、うちの法学部はお勧めしないかなという感じですね。

【法:D】現シスにも、テストが超難易度な授業ってありますか。

【現:J】最近話題のAIや機械学習の授業は、過去問がないと無理ですね。すごく厳しい授業なので、よほど興味か覚悟がある人しか受講しないです。

【法:K】現シスの知識情報システム学類は理系出身の人が多いんでしょうか。理系の知識がないと、プログラミングとか授業についていくのが大変そうですが。

【現:F】全員が理系ということはないですね。入試の話なんですが、現代システム科学域には「知識情報システム」「環境社会システム」「教育福祉」「心理」という4つの学類があって、それら「学類」の単位での入試区分と、現シスという「学域」単位での入試があります。学域単位の入試で入学すると、2年生に上がるときに学類を選ぶことになります。

私たちが所属している知識情報システム学類の入試だと、二次試験で数々が必要になるので、理系の人が多いです。学域単位の入試の場合は、理系の教科なしで受験することもできます。僕の友達で、文系だけど知識情報システムで学びたいから学域単位の入試を受験したという人もいます。ただ、知識情報システム

に入るためには1年生で微積分の授業を取る必要があるので、理系の人が多いといふのはありますね。

【現:A】今日の現シスの参加者6名のうち、もともと文系の人は1人で、あとは理系です。ただ、プログラミングは、あくまでツールでしかないので、研究テーマが理系っぽいこともあれば、文系っぽいこともあります。

【小島(現シス教員)】そうですね。授業でも例題として微積分とか物体の落下速度を選んだりすることはありますが、プログラミング自体に数学とか物理が直接関係することはないですね。

【現:A】就職ではIT人材が全然足りてないと言われている状況で、文系の人を対象にしてプログラミングを扱う仕事を募集してたりします。

【法:K】文系出身で大変だったことはありますか。

【現:J】文系だから大変ということはあんまりなかったですね。微積分とか数学の知識を使うような授業では理系の人の理解が早いとかはありましたけど、まあそこまで文系と理系に差はなかったと思います。

【小島】現シスは技術そのものを開発するわけではなくて、技術をどのように応用するかが中心なので、文系・理系両方のバックグラウンドの人がいることに意味があります。文系・理系にまたがった学際的な考え方で、例えば情報と教育を組み合わせるとか、情報と医療を組み合わせるとか、そういうことができる人材を育成することを目指しています。



学部・学域を選んだ理由、 今後のキャリアや就職について

法学部の学生

【現:A】皆さんのが学部を選んだ理由や将来してみたいことをお聞きしたいです。

【法:L】私は高校のとき、とくにやりたいことがなかったんですが、家族からそれだったら法学部へ行ったらと勧められました。どの分野へ行っても法律が関係するから、勉強したら何にでも生かせるよと言われて、そのとおりやと思って。(笑)もともと判例に興味があったんで、入ってよかったなと思ってます。

【法:M】私は韓国出身で、中学校のときに国際政治とか人権の問題に興味を持って、そういうことに取り組みたいと思ったのがきっかけです。何で韓国で進学しなかったかと言えば、個人的な意見なんですけど、韓国でも法曹になるためには大学院レベルのロースクールにいかないといけないのですが、学部レベルでは専門的に法学を学べるところがほとんどありません。なので、日本は近い国もあるし、韓国と憲法や制度がある程度は似ているから留学しようと思って、大阪公立大学に決めました。

【現:N】法学部の卒業後のキャリアって裁判官、弁護士、検察官のイメージしかないんですが、実際、法曹を目指される方ってどれくらいの割合なんでしょうか。

【永井(法教員)】去年の卒業生だと、法科大学院を含む進学が10%強です。あとは公務員が40%、民間が50%くらいですね。公務員と言っても、法律関係の仕事を担当していることが多いよ

うです。

【法:B】僕は民間企業を希望していて、就職先として法務は考えてないですね。法学部なのに、こんなこと言うのもなんんですけど、初めから法律をやる気があまりなくて。(笑)もともと歴史とか政治に興味があったのと、先ほど話が出ていた1年生の民法の授業が厳しくて完全に心が折れてしまって。

【法:I】僕も、法律よりも政治の分野を勉強したくて法学部に来ました。僕は、小学生のときから公務員になりたいと思ってて。キャリアとしては、法律を使う仕事というより、公務員として行政とか社会全般に関わる仕事をしたいなと考えています。それで、民間企業の就活はせずに、今は公務員試験の受験勉強をしています。

【法:B】大学院生のOさんはキャリアをどうお考えでしょうか。

【法:O(修士1年)】私は中国からの留学生なんですが、将来は国際機関で働く国際公務員になりたいと思っています。もともと中国の大学で日本語を専攻していて、卒業した後も日本語を使いたいと思って、日本の大学院に進学しました。今は、国際政治をテーマに研究しています。



現代システム科学域の学生

【現:P】私の場合は情報だけでなく心理学にも興味がありました。現シスにはPBL(Project Based Learning)演習という必修科目があって、現シスの先生のいろいろな専門分野のテーマで課題解決型の授業が行われています。そのPBL演習の中に心理学をテーマにしたものもあり、心理学も学べるということで現シスを選びました。

【現:A】文系から入ったJ君の理由を聞いてもいいですか。

【現:J】正直、高校のときはあんまり考えてなくて、何となく面白そうだなという感覚で受験しました。学域単位の入試で入って、2年生で知識情報システム学類を選んだんですが、その頃にはプログラミングで何かを作りたいと思うようになっていました。将来にはLINEみたいな身近なサービスを作りたいという気持ちがあります。

【現:F】僕も高校時代は大学でやりたいことがはっきりしていなかったので、入学後に4つの学類から選べる現シスが自分に合ってました。僕は知識情報システムを選びましたが、学類を決めるまでは保育学、環境学、心理学とかいろんな授業を取りました。様々な分野に触れながら自分の興味を探せるので、やりたいことが決まってない高校生にすごくお勧めできますし、大学に入ってから専門分野を決められるのが現シスのいいところだと思います。

【現:A】どういう職業に進むのかについてですけど、プログラミングをする仕事に就きたいと思っています。僕はプログラミングに興味があって知識情報システムに入ったんですけど、社会貢献というか、世の中で課題になっていることを直接解決できるのが楽しいことに気がつきました。今は就活が終わっていて、ソフトウェアをつくりプログラミングをするSler(エスアイヤー)と呼ばれるところに決まっています。

Slerというのはシステムインテグレーターという言葉の略で、顧客から何を作りたいのかを聞いて、仕様設計をして実際にシス

ムを開発する企業のことです。システムの保守や運用を請け負うこともあります。例えば、ある企業が手作業の業務を自動化したいとか、お客さんに向けてシステムを展開したいときに、Slerが外注の受付先になってシステムを作ります。

【現:G】自分はプログラミングをがつがつしたい派ではなくて、総合職もいいかなと考えています。知識情報システム学類ってメーカーに行く人もいるし、Slerに行く人もいます。就職先の幅広さが進学先の決め手のひとつでしたね。

【法:Q】大学院に行く人は多いんでしょうか。

【現:A】そうですね、今だと6割弱くらいが院に進んでますね。



研究テーマについて

【現:P】法学部では研究テーマをどうやって決めるのか聞いてみたいですね。

【法:B】僕たちの所属している政治系のゼミだと、研究テーマを自分で探さないといけません。法学部の多くの授業では、決まったものをたくさんインプットして、それをアウトプットすることがひたすら求められて大変ですが、テーマ探しはそれとは全然違う大変さがあります。前期のゼミで、ある研究テーマに決めたんですが、調べていくうちに相当研究されているテーマだとわかりました。今は、研究の蓄積がある中で、新規性を出すにはどういうアプローチができるか悩んでいるところです。

【現:A】現シスの研究でも新規性がすごく求められます。例えば学会発表で「これはどこが新しいの」とか「既存のものでよくない?」と言われたりします。僕は教育に興味があったんで、情報と教育を組み合わせて新規性を考えました。うちの大学で授業資料の配信とか課題の提出に使っているLMS(学習管理システム)のMoodleってありますよね。そのプラグインを研究テーマにしています。

【現:J】僕の場合、正直何も考えずに、こういう教育システムがあったらいいんじゃないかなと考えて取り組み始めました。ただ、調べてみたら、やっぱり僕がぱっと思いつくようなことなんて、もう他の誰かがやっているんですよね。なので、関連論文をたくさん読んで、目的は同じでも方法を変えてみたらどうなるかとか、別々に研究してきたことを組み合わせたら面白い結果が出ないかなとかを考えて、研究テーマを決めました。

【現:N】僕はプログラミングに興味があるんですけど、ChatGPTが登場したじゃないですか。あれ、僕の1万倍ぐらいプログラミングできるんですよ。(笑)じゃあこれ使わない手はないよなと思って、生成AIを教育に活用するというテーマにしました。でもJさんが言ったように、すぐ思いつくようなことは世界中で研究されてるんですよね。今はいろんな論文を頑張って読んで、新規性をどうするか考えてます。

【現:A】大学院だと研究テーマを決めるのがさらに大変そうですが、いかがですか。

【法:O】私は中国の学部で日本語を学んで法学研究科に来て、今は東南アジアの国際政治について研究しています。テーマを決めるまでに論文や本をたくさん読みましたね。

【法:H】選んだ研究テーマで何を問い合わせにするのかも大事ですよね。

その問い合わせが大変なんですが。テーマに関連する論文を読んでいると、論争になっているところや、同じテーマでも論文によって言っていることが少しずつ違うことがあります。たくさんインプットすると、研究の問い合わせが生まれてくることがありますね。

【現:A】法学も現シスも、論文をたくさん読んで研究テーマや新規性を見つけるところで苦労しているんですね。

【永井】補足すると、分野による違いはあって、法学部でも政治学の分野だと比較的そういうことをする余地があるんですけど、法律学の実定法²の分野だと、多くの場合は過去の判例を検討するという伝統的な方法を取ります。ただ、実定法でも例えば生成AIと著作権のように、社会の最先端の問題を扱う領域もあります。新しい課題に対して解答がない中で、いろんな判例のどれが優れているかったり、従来の原則を踏まえながらどのように妥当な結論に持っていくかを検討したりしています。

2 実定法 … 慣習や立法のように人間の行為で作られ、一定の時代や社会で実効性をもつ法。



一日を振り返っての感想

【現:A】法学部の人とディスカッションするのは初めてだったので、どんな共通点があるんかなと思ってましたが、法学部の皆さんもテーマの決め方とか新規性の難しさに悩んでいるというのは、新しい発見でした。社会と法律がつながっていることとか、いろんなキャリアがあることを知ることができたので、バイト先の塾の教え子たちに自信を持って法学部を勧めたいなと思います。

【現:G】現シスは中百舌鳥キャンパスなので、杉本キャンパスのことを知る機会があまりなかったんですけど、法学部で何を学んでいるのかとか、どれだけ勉強が大変なのかとかを知ることができてよかったです。法学部の勉強は大変という今日の学びをずっと持つときたいなと思います。(笑)

【現:F】法学部には現シスとは違うしんどさがあるだろうなと思ってましたが、新規性を見つける大変さとか同じような悩みがあるのが意外でした。たくさんインプットしたら新しい発見や問い合わせが見つかるというのは、自分の研究の参考にしたいと思います。

【現:N】予備試験の過去問を見たことがあるんですけど、イメージ通りに甲が乙を…みたいなことがたくさん書いてあって、何言っているのか全く分からなくて、法学部は大変そうだと思っていました。今回の座談会で、やっぱりすごく勉強をしていて、テストでも判例とか学説をいっぱい覚えているって聞いて、大変さの解像度が上がって、尊敬の気持ちが湧いています。自分はとても覚えられる気がしないので。(笑)本当にすごいと思います。

【法:B】現シスって何やってるか全く知らなかったんですけど、こんなに本格的なプログラミングやってるのを知って驚きました。プログラミング言語ってほぼ初めて見たんですけど、日本語で書いてあるだけ法学のほうがましやなって思えるぐらい。(笑)すごいなと思いました。法学部と現シスでやってることは違いますが、悩みとかつまずくところはあんまり変わらないと思ったので、悩みを共有しながら自分の考えをプラスアップしていくことが大事なんだなと思いました。これから情報システムを使うときは皆さんの顔

を思い浮かべて、感謝しながら使いたいなと思います。(笑)

【法:I】法律や行政の世界でも、ICTとかAIが主要なテーマになってきていて、避けて通れないだろうと感じています。今後、現シスのような異なる分野の人たちと交流をしていく中で、今日話が出てきたような、テーマ設定や新規性のような学ぶ上での共通性があることを覚えておこうと思います。

【橋本】OMUラーニングセンターの永井先生、普段、学生さんの学びの支援をされている立場から、ご感想はありますか。

【永井】皆さんが今日議論されていたように、研究テーマを決める難しさや、新規性にやっぱり悩むんだなと改めて感じました。ラーニングセンターで行っている学修支援に生かしたいと思います。皆さん何かあればぜひラーニングセンターにご相談いただければと思います。

【飯吉】ラーニングセンターの部屋は、杉本キャンパスから森之宮キャンパスに移転しましたが、どのキャンパスからでもオンラインで学修相談を受け付けていますし、学部生だけでなく、大学院生の方も相談に来られます。英語と数学の先生方による学修相談も行っていて、行き詰ったときに一緒に考えてくださるだけではなくて、さらにステップアップしたい方の支援もして下さいます。ぜひ活用してみてください。

【橋本】最後に、小島先生と永井先生からお願いできますか。

【小島】普段、同じ大学にいても、法学部、文学部、商学部とか、文系の学部のことをあまり知らなかったんですよね。皆さんのお話にあったように、すごくたくさん文献を読まないといけないとか、そういうことは新鮮な驚きだったと思います。

そして、法学部と現シスは全然違うタイプの分野なので、どういう部分が共通点になるのかなと、今日はそこをポイントとして聞いていました。皆さんお話をされている中で見えてきたように、研究のテーマの決め方とか、新規性の難しさとか、文系、理系問わず同じ部分があるんだなという、私自身も一つの気づきを得たという体験をさせてもらいました。

【永井】現シスと法学部でやってることは実は似てるだろと思っていました。ただ、その表現の仕方というか、ツールの違いがある。例えばプログラミングであれば、それぞれの言語を学ばないと新しいものがなかなか生まれないし、当然それなしでは仕事にならない。そのプログラミングの言語を一定程度やっても、さらに新しいものを生み出そうと思ったら、そのプログラミングの言語だと限界がある。だから、例えばC言語だったらC言語はC++になったり、さらにCになったりするという話ですよね。

法律学も実は同じで、法律学には法律学それぞの、民法だったら民法の中に通じてる文法、刑法だったら刑法なりの文法があります。民法だと、できるだけ私的な紛争というものがあれば私人間で解決をしてください。刑法であれば秩序を保つということであれば、できるだけ人権というものを修復しつつシステムを維持していくなど、それぞれその言語の本質というものが法律の中に隠れている。そこを学んで理解するのにものすごい時間がかかるわけなんですね。でも、それらが分からないと、現実に問題があったとき、どの法律や条文を使ったらいののか分からなくなる。

法学部で数年勉強すると、僕らはリーガルマインドという言い方をするんですけども、例えば公正さとか人権だと、そういうものを尊重しなければならないということを学びます。それは、法律学の文法を学んでいるということなんですね。

ただ、扱う領域が違うことであって、やってることは実は同じだし、新しいものを生み出すにはその新規性が問われるというのも同じだと思います。今日の議論の中で大きな気づきとして皆さんが得られて、とてもよかったです。



Campus Inquiry

経済学部・経済学研究科

大阪公立大学経済学部における特色ある教育とFD活動

はじめに

2022年4月、大阪市立大学と大阪府立大学の統合により誕生した大阪公立大学。その経済学部は、両大学の伝統と強みを融合させ、「能動的なグローバル・エコノミスト（Active Global Economist = AGE）」の育成を目指しています。本稿では、経済学部の特筆すべき教育実践とFD活動について紹介します。



4年一貫の少人数教育体制

大阪公立大学経済学部の最大の特徴は、入学から卒業まで一貫した少人数教育を実践していることです。教員1人当たりの学生数が約7人という全国的にも恵まれた教員・学生比率を活かし、すべての年次で演習科目が提供されます。

1・2年次では「イノベーティブ・ワークショップ（課題探求演習）」が開講されます。これは現代社会が直面する現実の問題を取り上げ、フィールドワークなどを実施しながら教員と学生が協力して解決策を探る科目です。また「論文演習」では、教員の指導のもと、各自がテーマを設定し、専門文献の読解から調査・考察の結果まで学術論文の形式でまとめる訓練を行います。

3年次からは「専門演習」に所属し、同じ分野に関心を持つ学生と継続的に学びを深めます。担当教員の指導を受けながら自らテーマを選び、卒業論文の作成に取り組みます。専門演習では企業見学やゼミ合宿など、教室外での多様な学習機会も設けられています。さらに学内外のゼミ間交流を目的とする「インター・ゼミ」も活発に行われ、報告、議論、論文作成など多面的なスキルを養成しています。

経済データサイエンス教育の充実

AI・IoT¹時代において高度な情報分析能力は不可欠です。経済学部では、旧大阪府立大学マネジメント学類の強みであった経済データサイエンス課程の蓄積を継承・発展させ、経済学とデータ分析の融合を図っています。

具体的には「データサイエンス入門」「計量経済学入門」「経済データサイエンス演習」「統計解析論」「コンピュータ講座」「計算機経済学」などの科目群を体系的に配置しています。経済データサイエンス演習では、日本のみならず世界各国の「生きたデータ」を用いて、統計分析ソフトを活用した実践的な演習を行います。学生は自らの関心に基づく研究課題を追究し、データを読み解く力を身につけていきます。

1 Internet of Things(モノのインターネット)。様々なモノがインターネットに接続する技術のこと。

グローバル教育の展開

旧大阪市立大学経済学部のグローバル化志向を受け継ぎ、英語による講義科目を豊富に提供しています。「Global Economy」「International Economics」などの科目では、グローバル経済の基礎や歴史的起源について英語で理解を深めます。授業内では英語によるディスカッションも行われ、経済学の知識とともに実践的な英語コミュニケーション能力を養成します。

また、海外大学とTV会議システムを通じて連携し、海外の学生とともに学ぶ科目も提供されています。上海市の諸大学、サンクトペテルブルク大学、ハノーファー大学など、世界各地の大学との教育・研究交流が活発に行われており、学生の留学や教員の研究交流を積極的に推進しています。

7つの科目履修プログラム

学生の多様なキャリア志向に対応するため、7つの科目履修プログラムを設定しています。「ジェネラル・プラクティカル・エコノミスト」（公務員・金融業等志望者向け）、「ポリシー・プランナー」（公益事業等志望者向け）、「グローバル・アナリスト」（商社・外資系企業等志望者向け）、「マルチ・ディシプリンアリー・エコノミスト」（税理士・公認会計士等志望者向け）、「エコノミック・データ・サイエンティスト」（情報・通信産業等志望者向け）、「リージョナル・クリエーター」（製造業・サービス業・地方公務員等志望者向け）、「ソーシャル・エコノミスト」（福祉・教育・NPO等志望者向け）の7類型です。学生は自らの興味・関心と将来のキャリアビジョンに合わせて履修科目を選択できます。

FD活動と教育改善への取り組み

経済学部では、教育の質保証と継続的改善を目指したFD活動を組織的に展開しています。学生による授業評価アンケートを定期的に実施し、その結果を踏まえた授業改善を各教員が行っています。また、シラバスの充実と適切化に向けたガイドラインを策定し、学生が事前・事後学修を含む学修計画を立てやすい環境を整備しています。

教員相互の授業参観や新任教員向け研修、ICT活用研修なども実施され、教育力の向上を図っています。2009年度には文部科学省「大学教育推進プログラム」に「4年一貫の演習と論文指導が育む学士力」が採択され、演習形式を重視したカリキュラムの充実化が図られた経緯もあります。

おわりに

大阪公立大学経済学部は、少人数教育を基盤としながら、データサイエンス教育とグローバル教育を両輪として、21世紀の経済・社会が直面する課題を先取りして解決策を提案できる人材の育成に取り組んでいます。入門科目から応用科目へ、そして各種演習科目へと段階的・系統的に配置されたカリキュラムは、学生一人ひとりの個性・関心・能力に応じた学びを可能にしています。大阪市立大学と大阪府立大学の伝統を融合した新しい経済学教育のモデルとして、今後の発展が期待されます。

応用生物科学専攻における副研究指導教員を活用した大学院研究指導体制

専攻の教育・研究の考え方

農学研究科の応用生物科学専攻では、植物を中心とした生物の多様な潜在能力の解明、食料・資源・有用物質の生産、グリーンバイオ・アグリノベーションに関わる研究など、幅広い分野を融合しながら持続可能な社会の構築に貢献することを目指しています。遺伝子レベルからフィールド科学、データ科学に至るまで、多様な専門分野を横断する教育・研究を行い、国際的な視野を持つ人材の育成を基本方針としています。



副研究指導教員制度の導入

このような研究を進めるためには、博士前期・後期課程を通じて、異なる専門分野の研究者と議論を重ね、多角的な視点を研究に取り入れることが重要です。そこで本専攻では、従来は必要に応じて設けていた副研究指導教員を、すべての大学院生に必ず配置する制度としました。副研究指導教員は、原則として学生が所属する研究グループ以外の教授が担当し、主研究指導教員とともに研究科・学部会議で正式に決定されます。

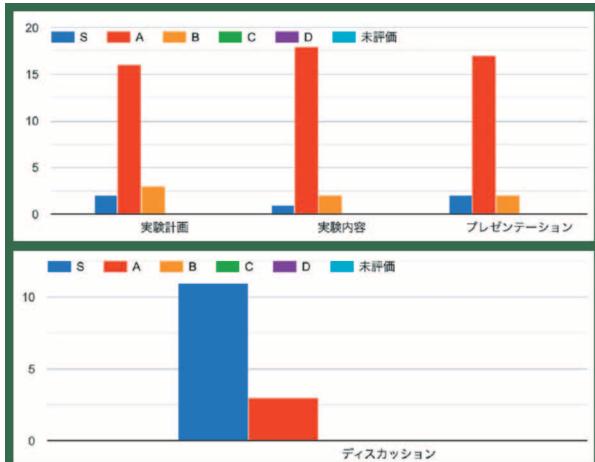
博士前期課程における指導の流れ

研究開始時には、主研究指導教員と学生が作成した研究指導計画書を、副研究指導教員が確認します。その後、博士前期課程1年前期のうちに面談を行い、学生が研究計画を説明し、それに基づいて議論を行います。研究の早い段階で異なる専門性からの助言を得ることで、研究に多角的な視点を取り入れることを目的としています。

博士前期課程1年後期には、「応用生物科学研究プレゼンテーション(必修)」において中間報告を行います。本科目では、主研究指導教員および副研究指導教員の評価をそれぞれ25%、残りの50%を専攻教員全体の評価としています。11月に対面形式で実施される中間報告会では、評価基準(ループリック)を事前に共有し、学生同士の活発な議論を促す構成としています。発表10分に対して質疑応答も10分

と長めにとり、学生からの質問や建設的な提言が充分に交わされる点も特徴です。報告会後には、教員による評価結果と学生からのコメントを各学生にフィードバックし、その後の研究に活かしてもらっています。

博士前期課程2年前期には、副研究指導教員との面談を再度行い、研究の進捗状況を確認しながら修士論文完成に向けた議論を行います。また、博士前期課程2年後期に行われる学位論文審査では、副研究指導教員が主査を担当します。博士後期課程でも、研究開始時に原則として2名の副研究指導教員を配置し、博士前期課程と同様の流れで研究指導を行っています。



ループリックに基づく教員による中間報告評価

制度導入の効果と今後

これらの取り組みは、2022年の大学統合に伴う改組のタイミングで開始しました。研究室ごとの慣習による研究指導や評価のばらつきを抑え、指導体制の透明性を高めるとともに、研究グループを越えた教員・学生間のコミュニケーションの活性化にもつながっていると感じています。研究面に加えて、奨学金申請書の作成など研究周辺の場面においても、副研究指導教員に助言を求める学生が見られるようになっています。また、副研究指導教員との定期的な面談を通じて、学生自身が研究内容を言語化し、客観的に振り返る機会が増えている点も、本制度の効果の一つと考えています。こうした経験は、修了後に研究者や専門職として活躍する際にも有用な力になることが期待されます。今後も専攻全体で価値観を共有しながら、学生の主体性を引き出す研究指導体制の充実に取り組んでいきたいと考えています。

農学部・農学研究科 教授 岡澤 敦司

グローバルな場で活躍できる看護師の育成を目指して

大学院での国際交流経験を通じて 看護やケアの深みを知る

看護学研究科では、前身である大阪府立大学の頃より継続して、タイ王国マヒドン国立大学と国際交流協定を締結し、双方の大学院生の交流を図っています。異文化看護フィールドワークとして単位取得ができる科目を履修し、2週間それぞれの大学を訪問し、大学の講義受講、実習・研修施設の訪問、出身大学や自身の研究テーマの紹介をします。大学院生なので、学生らは自らのスペシャリティを持っており、お互いの関心領域に関する討論も活発に行っています。それらの国際交流は2007年より開始し、これまで本学大学院生25名、マヒドン大学学生34名がそれぞれの大学を訪れています。



マヒドン大学でマネキンを用いたシミュレーション教育を受ける本学学生

タイ王国では先代のプミポン国王の母（シーナカリン王太后）が看護師だったことから、看護師という職業に対し国民の高い敬意があります。提携先の大学は国立大学であり、看護学生は看護師という仕事に誇りを持っており、対話の中で随所に感じられます。本学の学生もタイ学生との対話を通じてそれぞれの文化に根付いた国家的課題とその施策、看護教育の特徴や就業事情を知り、学習を深めています。国際交流活動は、次世代を担う看護のリーダーとして視座を高める貴重な経験となり、本学看護学研究科のディプロマ・ポリシーである「地域社会及び国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成する。」に大きく寄与する活動であるといえるでしょう。



マヒドン大学学生と教員が大阪府の病院研修に参加したときの記念撮影

教員間の交流を図り 国際的共同研究を推進する

マヒドン大学看護学部では、独自に毎年多くの国の中の看護研究者を招へい、基調講演を含めた国際学会を開催しており、教員同士の国際共同研究に積極的です。これまで本学看護学研究科も、ともに学会を企画開催するパートナー（delegator）として何度か共同してきました。このような学術的発展の可能性を持つことができたのも長期にわたる交流協定があればこそ、といえるでしょう。

**Nergizing Nursing Profession for NCD Challenges
(N3 Nursing Conference)**
Bangkok, Thailand on January 8th – 10th, 2020



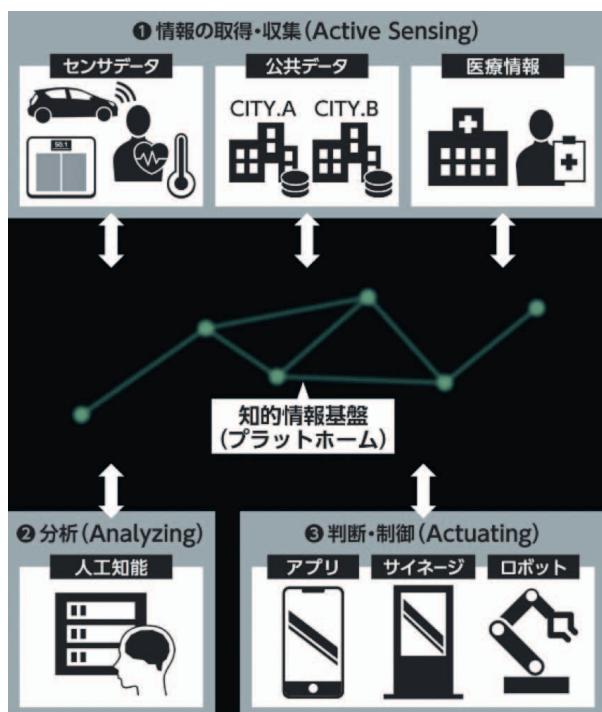
N3 学会(2020)共同開催時の記念撮影

看護学部・看護学研究科 教授 志田 京子

多様性のある組織に多様な教育を— 機能強化支援事業の活用

情報学研究科の2つの専攻と特徴

われわれ情報学研究科は直接の学部組織を持たない独立大学院で、基幹情報学と学際情報学の2つの専攻があります。各専攻の定員は、博士前期課程がそれぞれ75名と30名、博士後期課程が10名と5名という比較的小規模な部局です。大部分の学生は、本学の工学部・情報工学科と現代システム科学域・知識情報システム学類から進学してきますが、国内外の他大学からの進学者も少なからずあります。たとえば、研究科としてフランスの理工系グランゼコールであるCY-TechやENSEAなどの教育機関と提携を結び、それ毎年3名程度の学生を受け入れています。教員にも複数の外国人がいる多様性のある組織です。教員が中百舌鳥キャンパスと杉本キャンパスに分散していることから、多くの講義をオンライン遠隔で実施していることは、大きな特徴の一つです。



養成する人材像「情報学の AAA 」

大学・高専機能強化支援事業

情報学研究科は、図に示すようなAAAの能力を持つ知のプロフェッショナルを養成することを目指していますが、その趣旨に則って応募した文部科学省の大学・高専機能強化支援事業(成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金)に採択され、令和5年度より開始しています。デジタル分野の人材を育成するための戦略、高度専門人材を育成するための計画であることが求められており、事業の内容には教育に関わることが多いので、そのいくつかを紹介します。

その一つが、英語履修コースの設置です。すなわち、英語で開講される講義だけを履修することで修了できるコースです。情報学研究科では、これまで英語で開講されている講義はありましたが、十分ではありませんでした。そのため、2026年度から英語で開講できる教員を募って「英語コース標準履修課程」を設ける予定です。かねてから、留学生が日本語の講義を十分に理解することができないなどの課題がありましたが、このことで留学生の教育環境の充実が図れ、海外大学との学生交流や教育連携もより強化されると考えています。

もう一つは、履修証明プログラムの提供です。履修証明制度は、大学等の積極的な社会貢献を促進するため、おもに社会人等を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム(履修証明プログラム)を開設し、その修了者に法に基づく履修証明書を交付できるというものです。受講者には情報処理技術者試験を受験するような社会人を想定し、学習意欲を高めた修了者には大学院進学を志す効果も期待しています。2026年度の開設を目指しており、開設されれば本学では4つ目の履修証明プログラムとなります。

このような施策のもとでわれわれ情報学研究科では、最終的には2029年度までにいまより15名の入学定員増を計画しています。そのときには、いまはまだ想像もできないようなはるかに多様な組織になっているにちがいありません。

情報学研究科 教授 宇野 裕之



もっともっと
学びが楽しくなる!
多様な学びの
ステップアップを
お手伝いします

大阪公立大学では、本学の学生・教員、そして職員のみなさんが、学問を通じて相互に学び合う可能性を拓く起点として、OMUラーニングセンター（教育学修支援室学修支援部門、以下LC）を開設しています。

LCでは専属の先生と「LC学生スタッフ」が学修相談、教材開発、学びのイベント・セミナーなどの企画・実施・運営を通して、みなさんの学修支援を行っています。対面（森之宮キャンパス）・オンライン（全キャンパス・自宅等自由な場所から参加可能）のハイブリッド形式で各種相談を受け付けています。

1 LCで勤務し、本学の教育活動をサポートする学生を「LC学生スタッフ」と呼んでいます。



各サポートの情報、
学びのTipsや
ラジオ動画などの
DLはこちらから
一部除き学外の方にもご覧
いただけます

あなたの学びの味方! OMUラーニングセンター

英語をもっとレベルアップしたい!



英語が苦手…

一人で悩まず、相談しよう!



大学でどうやって勉強しよう?

レポートのことがわからない…

LCでは専属の先生がレポートの書き方、プレゼンテーションの方法、大学での学修相談全般について対応します。（レポートなどの添削は行いません。）また、学びの振り返りや、学修計画の立案を支援します。

気軽に参加できる
イベントを
開催しています!



自習に役立つ
情報はこちる!

国際基幹教育機構の英語担当の先生がサポート。
自分の実力・目的に合わせた自習メニューを相談でき、
継続的なアドバイスをもらいます。また、毎月の課題
ライティングの添削指導も受けられます。

個別相談の予約はこちる
(または右上のQRコードから)

数学の質問がしたい!

数学の試験がピンチ

数学研究所特別研究員がサポート。数学学修の相談、授業の内容の確認、定期試験対策、つまずいているポイントと一緒に探し、その解決方法を相談できます。

また、毎月の課題と解説をMoodleに掲載。理解度チェックに活用してください。数学に関することならなんでもどうぞ!



レポートのポイント・基本のルールを解説するミニセミナー「ちょこレポ」を定期的に開催。また、学生スタッフによるキャンパスツアー、大学でのさまざまな学びについて先輩や先生の経験談を聞く「ウチラ（公大生）の知らない世界」など多様な学修支援イベントを実施。気軽にご参加ください!

◆自主学修教材「学びのTips」(学内限定公開)

レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、先生への質問の仕方など、自学自習や大学生活に役立つ情報・ポイントをテーマごとにまとめた教材です。数学編もあります。[こちる](#)から自由にダウンロードして活用してください。（またはこのページの右上のQRコードから）

◆自習スペース

森之宮キャンパス4階（416）「ラーニングセンター」にて自習ができる場所を提供しています。授業の準備、グループワークにもどうぞ。



2025年9月から森之宮キャンパス
4階(416)で開室!
杉本・中百舌鳥への出張イベント・
リモートでの学修支援も対応!



教育の充実を目指す 大学全体の取り組みをご紹介します！

学部・学域などを
超えて、大学全体で
教育の充実に向けた
取り組みを行っています！

高等教育研究開発センターの活動のひとつに全学FDの推進・支援があります。学生や教員の特性と状況・ニーズに合った教育改善や多様なFD活動の全学的な推進と支援を行っています。ここではセンターが2025年度に実施した全学FDの推進・支援活動の一部をご紹介します。また、部局ごとにも教育改善やFDに関する取り組みが活発に行われています。具体的な活動は「Campus Inquiry」(本誌6~9ページ)をご覧ください。

大学の学びについて教職員・学生が 共に考える企画を実施しています！

① 教育改革フォーラム

大学教育をめぐる多様な課題について、大学内外の視点を取り入れながら、大学全体で考えを深めることを目的に開催しています。大阪市立大学で第29回まで実施した教育改革シンポジウムを引き継ぎ、大阪公立大学としての第4回教育改革フォーラムを10月20日(月)に実施しました。成瀬尚志先生(大阪成蹊大学)に「生成AI時代のレポート課題を考える」と題して、論題と授業と評価を三位一体で設計すること、書き手を育てること等について、ご講演いただきました。質疑応答では、生成AI時代における教員の役割の変化や、授業の実践的な課題などについて議論が行われました。

② 新任教員FD研修

2025年度の新任の先生方を対象として、大阪公立大学の学生の皆さんがどのように学んでいるのかなどについてご紹介する研修を4月2日(水)に行いました。研修はZoomによる同期型(リアルタイム)と、動画による非同期型(オンデマンド)を組み合わせて実施しました。同期型の研修「授業を育てる」では、実例を交えた研修を通して、本学の学生の皆さんのがより良く学べる授業を行うにはどのようにすればよいかを考える機会にしていただきました。非同期型の研修では、「本学の教育とFD」、「授業におけるICTの活用」、「データで深める本学の学生についての理解」、「本学における修学上の合理的配慮の提供」についての動画・資料を各自視聴していただきました。

* FDとはFaculty Developmentの略で、主に大学教員が教育のあり方などについて議論したり互いに学びあったりする取り組みの総称です。
* このページで紹介しているFD企画や学生調査は、高等教育研究開発センターが実施しています。

高等教育研究開発センターのHPで上記を含む各種催しの動画や資料をご覧いただけます(学内限定で公開)
<https://www.omy.ac.jp/las/highedu/fdevent/report2025/index.html>

③ 大学教育研究セミナー

大阪公立大学では、学生の皆さん学びの実態やニーズを大学全体で定期的に調査し、その結果を共有することで、教育改善などに活用しています。7月2日(水)に実施した「第6回大学教育研究セミナー」では、「大阪公立大学で学生はどう学んでいるのか 学生調査結果から見える学修状況」と題し、2022年の開学以降、大阪公立大学で学生のみなさんが入学からどのように学んでいるのかを分析した結果を報告しました。また、学生のみなさんが生成AIを学習にどのように利用しているかを分析した結果も報告しました。



④ 全学FD

生成AIが広く使われるようになり、学習や文章作成を助ける道具として活用される場面が増えています。大阪公立大学の授業支援システム(Moodle)には、課題レポートに含まれる文章を分析し、生成AIが利用されている可能性を表示する機能があります。4月25日(金)に「そのレポート、AI製? Moodleで始めるAIライティング対応」というテーマでセミナーを開催し、機能の特徴や具体的な使い方をデモンストレーションも交えてご紹介しました。あわせて、学生の生成AIの利用状況や、本学における生成AI利活用ガイドラインなど、授業での適切な活用や評価を考える際に役立つ情報も共有しました。



編集
後記

大阪公立大学の教育広報誌「大学教育だより」と大学での幅広い学びの道しるべ「アンロソ」の第4号をそれぞれ発行しました。今回からPDF版のみの発行となります。これまで紙幅の関係で十分に掲載できなかつた情報もリンクなどで参照していただけるようになりました。「大学教育だより」は本学の教育を学内外に広く発信することを目的としています。

「アンロソ」では新入生の皆さんに向けて、大学で学ぶ意義やおもしろさについて、文系・理系の先生方に語っていただいている。記事を通して各学部・学域の学生さんや、教職員のみなさんの日々の活動や思いが伝わるような紙面になるように心掛けました。総合大学である大阪公立大学の多彩な学びや教育を感じていただけると嬉しいと思います。(橋本)